

(9) 四国



四国地域では、景気は持ち直しの動きが緩やかになっている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直しているものの、一服感がみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられるもの、一服感がみられる。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(―は上方に変更、―は下方に変更)。

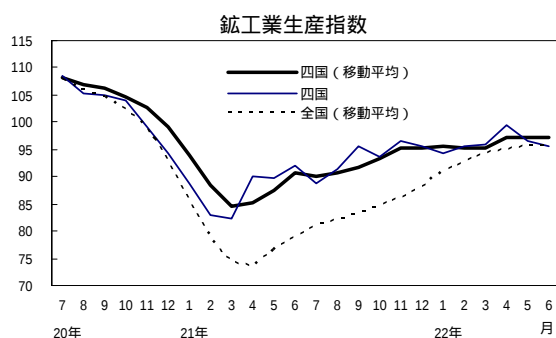
前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年5月)	今回(平成22年8月)	
個人消費	持ち直しの動き	持ち直しの動きがみられるものの、一服感がみられる	↓
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、下げとまりつつある	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直しているものの、一服感がみられる。

化学は、医薬品を中心に増加している。電気機械は、LEDなどは好調なものの、半導体が低調となり、減少している。食料品は、菓子が工場の定期修理の他、清涼飲料水の需要が低調であったことから、減少している。パルプ・紙は、おおむね横ばいとなっている。一般機械は、金属工具、固定式クレーンの需要が旺盛であることから、増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

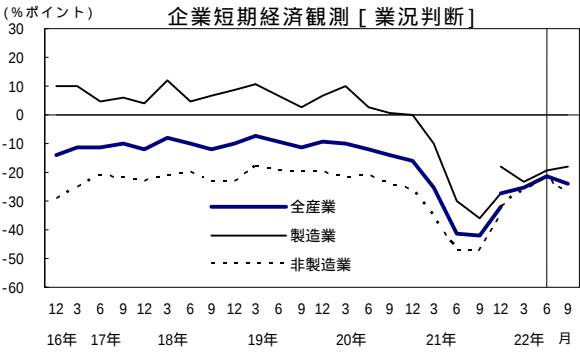
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
化学	17.1	▲6.7	11.2	3.6	9.8
電気機械	15.4	6.1	▲10.7	5.2	▲13.1
食料品	13.6	▲4.7	▲0.2	▲1.1	▲6.6
パルプ・紙	11.8	1.3	1.0	0.6	1.5
一般機械	8.9	10.8	2.9	▲7.3	▲15.4
鉱工業	100.0	0.1	2.0	1.9	▲0.5

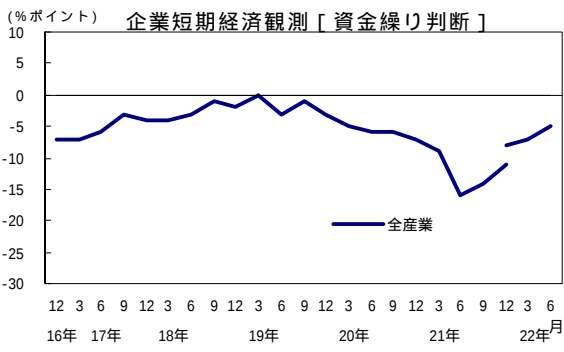
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 4~6月期は速報値。
3. 電気機械には、情報通信機械、電子部品・デバイスを含む。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

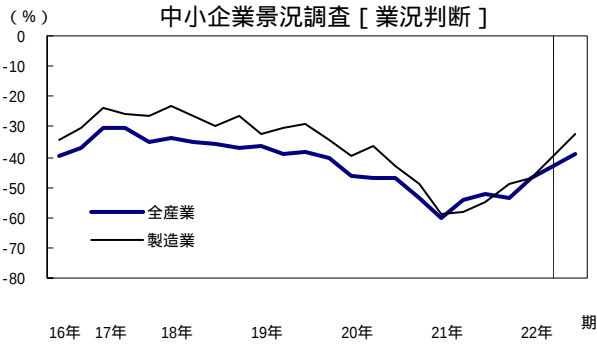
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年9月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

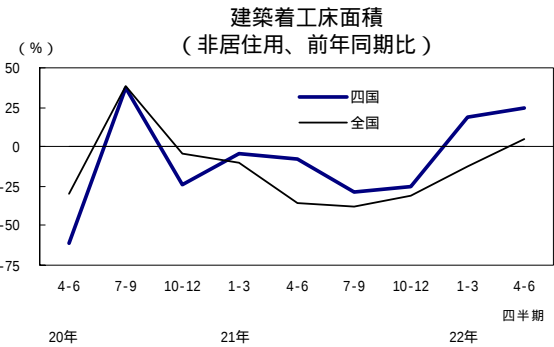
景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]
「当社自身は取引先の新規開拓等で業績が堅調である一方、同業他社や関連加工場の様子からは大変厳しい状況が伺える(繊維工業)など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 22年度の設備投資は前年度とほぼ同水準の計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	▲12.2(▲0.1)	▲0.0(▲5.6)
製造業	▲25.6(5.5)	15.7(▲1.5)
非製造業	3.0(▲4.3)	▲13.0(▲9.7)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



2. 需要の動向

- (1) 個人消費は持ち直しの動きがみられるものの、一服感がみられる。

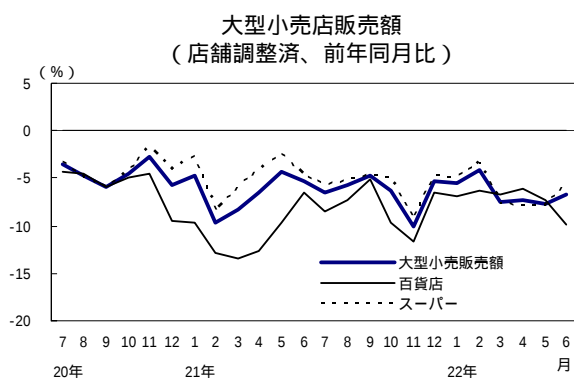
大型小売店販売額

百貨店は、4月は、飲食料品の催事が好調などから、前年比の低下幅は縮小した。5月は、中旬以降の天候不順などにより夏物衣料の不振などから、前年比の低下幅は拡大した。6月は、前年の夏物クリアランスセール前倒しの反動による婦人衣料の不振などから、前年比の低下幅は拡大した。なお、日本百貨店協会によると、四国地区の7月の売上高は前年同月比で4.9%減となっている。

スーパーは、6月は、5月中旬以降の天候不順の影響などから、飲料は不振であったが、エコポイントの影響で家庭用電気機械器具に動きがみられたことから、前年比の低下幅が縮小した。

景気ウォッチャー調査(6月)[家計動向関連(現状)]

「子ども手当の支給月であり、どの程度消費に回るかと期待していたが、直接消費に結びつくことはなかった。また、サッカーワールドカップの影響で外食産業は影響が出ているようである(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

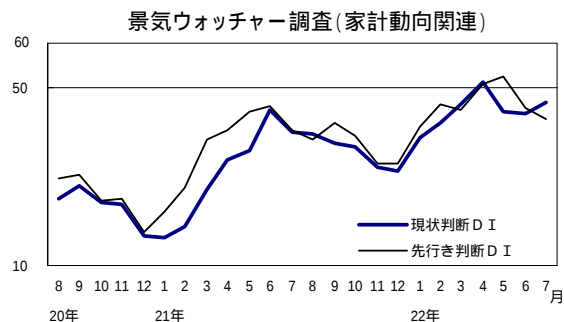
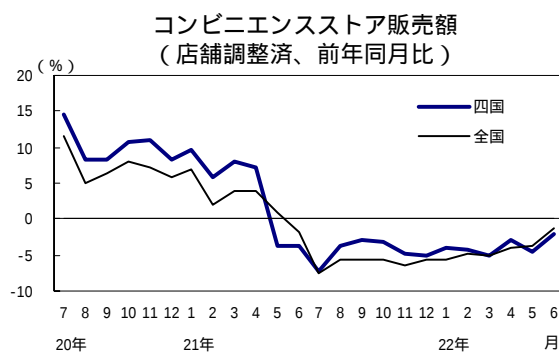


(前年同期比、%)				
	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	4-6月
大型小売店	▲5.8	▲7.0	▲5.8	▲7.3
百貨店	▲7.2	▲9.0	▲6.7	▲7.8
スーパー	▲5.3	▲6.2	▲5.4	▲7.1
乗用車	13.8	31.7	27.6	22.7
景気ウォッチャー	39.0	33.3	42.3	46.6

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。

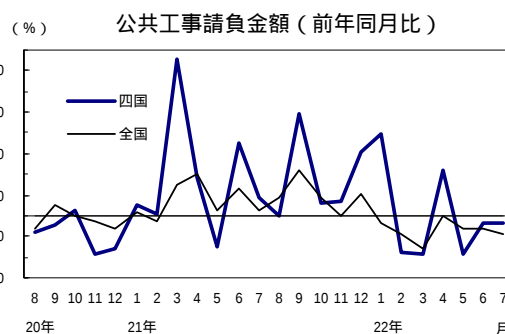
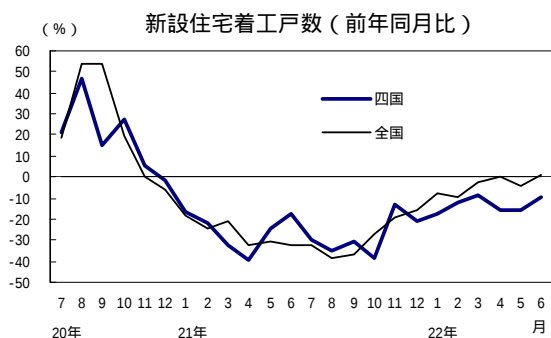
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



- (2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

- (3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

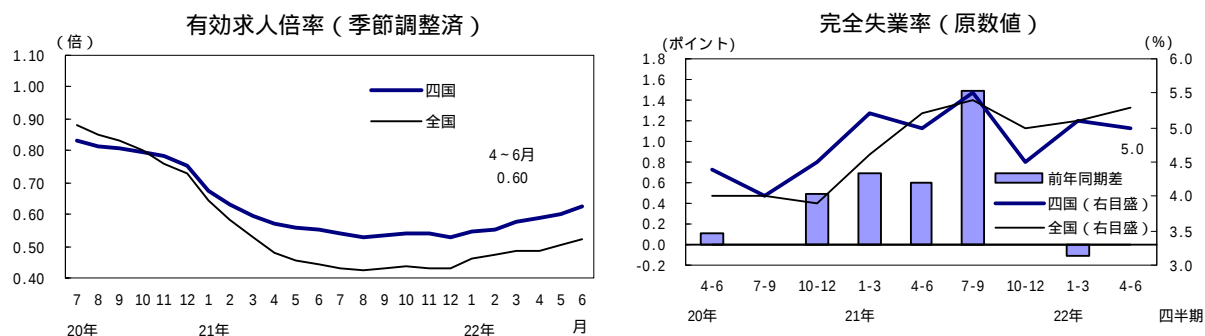


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期と同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

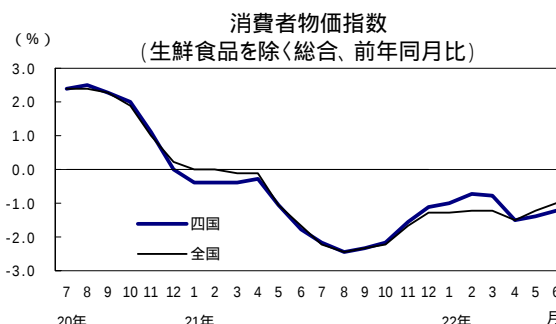
「医療福祉関連企業を中心に、幹部候補の採用が少し活発化してきている。また行政の共同企業体事業における輸出マネージャ採用などもみられ、回復感はある（求人情報誌製作会社）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年7-9月	10-12月	22年1-3月	4-6月	22年7月
倒産件数 (前年比)	85 ▲30.9	102 ▲1.9	73 ▲41.1	94 ▲6.0	31 ▲13.9
負債総額 (前年比)	326 ▲13.0	1,785 848.8	219 ▲63.7	135 ▲41.8	73 ▲46.0



○ 景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・国内個人旅行は、引き続き「安・近・短」の傾向である。海外個人旅行の申込みは増加している。特にヨーロッパ等、単価の高い方面への旅行の申込みが多い（旅行代理店）。

<先行き>

- ・地元開催の瀬戸内国際芸術祭の効果で、インバウンド観光の活発化が期待できる（旅行代理店）。

